

第25回

日本癌病態治療研究会を 主催するにあたり

第25回日本癌病態治療研究会当番世話人
千葉大学 大学院医学研究院 先端応用外科学 教授

松原 久裕



この度、第25回日本癌病態治療研究会を平成28年6月8日（水）、9日（木）に千葉市の三井ガーデンホテル千葉にて主催させていただきます。記念すべき第25回という区切りの研究会を担当させていただき心より御礼申し上げます。多くの皆さまのご参加を切に願っております。よろしく願いいたします。

2年前の平成26年6月、岐阜において開催された本研究会の理事会において竹之下誠一理事長より突然、その当日に今回の世話人の話がありまだ早いのではと最初は辞退申し上げたのですが、竹之下理事長からぜひにということで結局承諾いたしました。理事会にて指名を受け、皆さまよりご承認いただきました。ありがとうございました。前述したように今回は磯野可一先生、生越喬二先生が中心となり本研究会を発足させてから25回という区切りの良い会であり、四半世紀という記念すべき研究会の当番世話人を仰せつかり、あ

らためて感謝申し上げます。開催にあたりましては竹之下理事長をはじめ、理事、世話人の先生方に多大なるご協力をいただきありがとうございます。

今回は本研究会が目的としている癌の病態や治療法に関する研究に関し、癌自体の悪性度と宿主に惹起する生体反応の両者を考慮した治療法の確立を目指すという、がん治療において私が最も重要だと考えている観点から主題を決定し、「癌と宿主の連環を斬る」というテーマにいたしました。固形癌におけるがん治療の中心は手術であることは論を待ちませんが、手術のみでは治癒させられない高度進行癌も存在するのも残念ながら現実であります。周術期に種々の抗がん剤、放射線を利用した集学的治療が展開され、予後向上に寄与しております。また、これらの治療の効果には生体側の反応は極めて重要であり、栄

養状態、炎症などを含め生体の免疫機構は極めて重要な役割を担っていることは明らかだと考えております。癌と宿主の関係を明らかにして治療を目指す、まさに本研究会の目的そのものだと思います。これまで腫瘍免疫を利用した治療はあまり重視されてきませんでした。ペプチドによるワクチン療法の効果が期待されるようになり、これまでの抗がん剤の効果とは異なった局所の抗腫瘍効果ではなく生存に寄与する可能性が徐々に明らかとなり、新たな予後の解析法も考えられるようになりました。また、さらに悪性黒色腫に対する治療において顕著な予後効果を示し、それまで有効な抗がん剤が少なく治療に難渋した予後不良な症例への有用性から、まさにがん治療の break through として一挙に注目されるようになった Immune Check Point の阻害剤が出現し、その流れは一挙に変革を見ました。これまでの5-FU やシスプラチンのような化学療法剤が第1の波、さらにゲノム医療、個別化治療の重要な役割を担うと考えられた分子標的薬の出現による予後の改善が第2の波として難治癌治療へ希望の光となった新世代の到来に引き続き、Immune Check Point の阻害剤の出現はとてつもない大きな第3の波ともいわれるようになっており、米国癌学会 (AACR) や米国癌治療学会 (ASCO) では非常に注目の集まる最大のテーマとなっています。生体の反応そのものががん治療の中心になるという時代が到来し、本研究会が追求してきたテーマが真実であったことを実現されつつある時代になったと思います。

このように現在のがん治療の潮流を見据え、シンポジウムとして「がん個別化治療の最前線」、「免疫機構を利用した新しいがん治療」、パネルディスカッションとして「癌の病態から考えた合理的な術式・器械選択」、「次世代シーケンサーがもたらすがん治療研究」と今後のがん治療を考えていく上でたいへん重要なテーマを設定いたしました。特別講演は理化学研究所統合生命医科学研究センター副センター長の古関明彦教授に iPS 細胞技術による NKT 細胞再生とがん免疫治療という演題で貴重なご講演をいただけることになりました。また、教育講演として和歌山県立医科大学外科学第2講座の山上裕機教授から宿主免疫機構を理解して癌を斬るという今回のテーマを考慮していただいた演題で講演いただくことになりました。両講演とも非常に興味深いテーマでこれからの診療、研究にたいへん役立つと期待しております。「がん個別化治療の最前線」のシンポジウムは馬場秀夫教授、池田徳彦教授に司会、指定演者の選定をお願いし、まさに最前線の治療についての現在の方向性が明らかになるとと思います。特別発言を平川弘聖教授にお願いしました。もう一方の「免疫機構を利用した新しいがん治療」のシンポジウムでは柴田昌彦教授、河野浩二教授の司会、構成で Immune Check Point の阻害剤を中心に現在の免疫治療が明らかになるとと思います。特別発言を本研究会の基礎分野の要である松島綱治教授にお願いしました。「癌の病態から考えた合理的な術式・器械選択」のパネルは前回の第24

回研究会にて当番世話人の加藤広行教授がパネルのテーマとした「癌外科治療の潮流と変革」に引き続き、がん治療の最も重要な部分を担う外科治療をその病態から新たな方向性を見いだせればと加藤教授と島田光生教授にお願いしております。特別発言として桑野博行教授にまとめていただきます。「次世代シークエンサーがもたらすがん治療研究」のパネルは第2の潮流である分子標的薬の新たな出現、またより効果的な使用を可能とするバイオマーカーの探索など個別化治療がさらに推進できるような今後の展開に期待し、西山正彦教授と三森功士教授にお願いしました。特別発言は森正樹教授に今後の方向性をご教示いただければと考えております。

また、今回は25周年と区切りの研究会であったため、磯野可一先生に本研究会の四半世紀の歩みに関し記念講演をと考えて依頼しましたが、竹之下理事長のもと、本研究会が平成25年11月に特定非営利活動（NPO）法人として新たに法人格を取得し出発することになったので、本研究会が進むべき今後の新たな方向性について現理事長が示した方が良いとのご提案があり、竹之下理事長に話をしたところ快諾され、現理事長による理事長講演として企画することにいたしました。

また、今回も本研究会のあり方として口演会場は昨年と同様に一会場として、一般演題はすべてポスター発表とさせていただき、参加したすべての方が同じ発表、討議を共有できるようにいたしました。理事、世話人の先生方の多大な協力により、上級演題を含め

100題を超えるたいへん多くの演題を応募していただきました。ぜひ、若手の医師を中心にたくさんの方に参加いただき、今後のがん治療の指針となるべく熱い討論が行われることを切に望んでおります。今回の研究会からこれからのがん治療の方向性を見いだせばこの上ない幸せだと思います。多くの先生に参加していただけるような有意義な研究会となるべく皆さまにご支援いただきながら、医局員とともに努力しております。皆さまもご存じのように時代の流れにより開催費用を集めることが難しくなっており、当科の医局員を中心に手作りの研究会となっております。至らぬところが多々あるかと存じますが諸事情をご賢察の上、ご容赦いただければ幸いです。また、今回の研究会の運営準備室として素晴らしい活躍をしていただき、たいへんお世話になった日本コンベンションサービス株式会社の岡本麻結様に紙面を借りて御礼を申し上げます。

本研究会の成功に向け、皆さまのご支援、ご協力よろしくお願い申し上げます。

[第25回 日本癌病態治療研究会 開催概要]

- 当番世話人 松原 久裕 (千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学)
- テーマ 「癌と宿主の連環を斬る」
- 会 期 2016年 6月 8日 (水) ~ 9日 (木)
- 会 場 三井ガーデンホテル千葉
〒260-8626 千葉県千葉市中央区中央1-11-1
TEL : 043-224-1131 FAX : 043-224-1156
- 参加費 10,000円 (医師) 3,000円 (研修医、医師以外) 無料 (医学部学生)
- 事務局 **〈主催事務局〉**
千葉大学大学院医学研究院 先端応用外科学
宮内 英聡
〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL : 043-226-2110 FAX : 043-226-2113
〈運営準備室〉
日本コンベンションサービス(株)
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル14階
TEL : 03-3508-1214 FAX : 03-3508-1302
E-mail : jsct25@convention.co.jp

会議日程

- 【編集委員会】 日 時 : 6月7日 (火) 15:30~16:00
会 場 : 京成ホテルミラマーレ 8階「梅花」
- 【理事会】 日 時 : 6月7日 (火) 16:15~17:15
会 場 : 京成ホテルミラマーレ 8階「梅花」
- 【世話人会】 日 時 : 6月7日 (火) 17:30~18:00
会 場 : 京成ホテルミラマーレ 8階「オーキッド」
- 【総会】 日 時 : 6月8日 (水) 13:10~13:30
会 場 : 三井ガーデンホテル千葉 3階「平安南」

全員懇親会

- 日 時 : 6月8日 (水) 18:00~20:00
会 場 : 三井ガーデンホテル千葉 4階「天平」